

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	向 美記	学年(渡航時)	3 年
派遣先大学	山東大学		
国・地域	中国		
派遣期間	2024	年 9 月 ~	2025 年 7 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
教育社会学	教育における不平等や社会構造を、社会学理論と事例研究から分析する。
城市社会学	都市空間、都市文化、移民など、都市における多様な社会現象を理解する。
农村社会学	中国農村社会の構造変動と課題を理論・実証の両面から把握する。
2 学期目	
履修科目	授業内容
组织社会学	社会構造における組織の機能と影響を分析する。
日本社会与文化	人類学的視点から東アジア諸国と日本を比較し、日本の社会や文化の歴史的背景および現代における実践を理解する。

留学レポート(1,500 字以上)

○学びの環境：山東大学中心キャンパス

私は山東大学中心キャンパス内の哲学与社会发展学院に留学していました。キャンパスは緑豊かで、四季折々の自然の移ろいを感じながら、落ち着いて学業に専念できる環境でした。特に印象的だったのは、現地学生の勉学に対する真摯な姿勢です。図書館や空き教室では常に熱心に学習する学生の姿が見受けられ、学内全体に高い学習意欲が醸成されていました。日常生活面では、キャンパス内の食堂(地下 1 階から地上 4 階まで)が大変便利で、中国各地の多様な郷土料理を味わうことができました。また、留学生寮は基本的に 2 人部屋で、世界各国から来た留学生と交流することができました。1 か月の費用はおよそ 1 万 5000 円と、非常に低く抑えられていました。

○留学生サポート体制

留学生の総合的な支援は、大学の国際事務部が担当しています。さらに、留学生にとって特に心強かったのが、「山东大学学生国际交流协会(SICA)」の存在です。SICA メンバーが各留学生にチューターとして割り当てられ、生活・学習面でのサポートをしてくれました。私の場合は、新学期開始の約 2 週間前にメールでチューターとの WeChat 交換が案内されました。履修登録の手続きや郵便物の受取方法など、些細な疑問にも随時相談に乗ってもらい、初期段階での不安を大きく軽減してもらいました。SICA は学期初めには交換留学生向けのウェルカムパーティーを、学期末にはお別れ会を主催するほか、様々な交流イベントを企画していました。加えて、WeChat 上には交換留学生専用のグループが設けられ、不明点を気軽に質問し合えるコミュニティが形成されていました。

○履修登録

山東大学は2学期制(春学期:2月～6月、秋学期:9月～12月)を採用しています。履修登録は、各学期開始前に大学の「本科生网站」を通じてオンラインで行います。私は、現地学生と共に中国語で行われる専門科目(社会学関連)の講義を受講しました。履修プロセスに関して、新学期の初週は「授業トライアル期間」として設定され、実際に複数の授業に参加して内容を確認することが可能です。正式な履修登録は第2週に行われます。交換留学生は、所属学院に関係なく学内の全授業を自由に選択することができます。また、私の場合、履修単位数の上限や抽選制度はありませんでした。履修登録について、気になる点は学院の教務の先生に尋ねてみてください。一点、中国語で行われる専門講義を現地学生と共に受講する場合、実質的に HSK5 級以上の中国語能力が求められることには注意が必要です。その他、「i 山大」という We Chat のミニプログラムで登録した授業の時間割や空き教室などを調べることが出来ます。

○授業

私が履修した主な授業とその特徴は以下の通りです。

教育社会学: 3人組のグループワークと発表が1回課され、最終評価は期末論文。

城市社会学: 6人組のグループワークと発表が1回課され、期末には筆記試験が行われた。

农村社会学: クラス全体でフィールドワークを実施し、得られたデータを基にグループで分析・発表を行った。その後、発表内容を期末論文にまとめた。

组织社会学: 講義形式が中心であったが、グループワークとそれに基づく発表も組み込まれ、期末論文が課された。

日本社会与文化: ディスカッションが非常に活発な授業。個人での30分プレゼンテーションを3回行うことが求められ、深い考察と発表力が鍛えられた。

全体的に、毎週の小レポートのような課題はありませんでした。しかし、上記のようにほぼ全ての授業でグループワークと授業内発表が組み込まれており、発言し、協働し、研究成果をプレゼンする機会が非常に豊富でした。専門用語が多く、難易度は高かったですが、中国語能力を向上させる良い機会になりました。

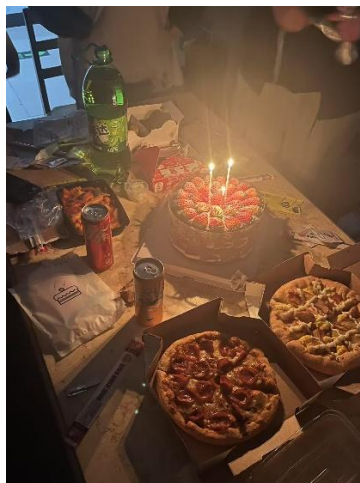
○最後に

中国・山東大学への交換留学は、私に「自らの可能性を信じる力」という、人生のあらゆる挑戦に立ち向かうための原動力を与えてくれたと感じます。異国の地で言葉や文化の壁にぶつかり、一步步前に進んだ日々の中で、「できない」と思っていたことが「できる」に変わる瞬間を幾度も経験しました。模索と発見を繰り返したこの一年は、知的成長のみならず、人間的な成長をももたらしてくれたと実感しています。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



大学の食堂(4階)



21歳の誕生日パーティー



課外活動



大学の南門



農村社会学でのフィールドワーク